

SGLT2使用中の注意（脱水・発熱時の対応）



SGLT2阻害薬は心腎保護に有用ですが、体調不良時は脱水・ケトアシドーシスの予防が重要です。自己判断で継続/中止せず、以下の目安と医師の指示を守りましょう。

施設名称：医療法人社団悠鳳会 0th CLINIC（ゼロスクリニック）

〒103-0027 所在地：東京都中央区日本橋二丁目16番9号 CAMCO日本橋ビル4階

電話：03-6281-9280 FAX：03-6281-9281 Email：info@0thclinic.com

A. 基本のポイント

脱水リスク：利尿作用で体液が減りやすく、発熱・嘔吐・下痢時は悪化しやすい。

ケトアシドーシス：血糖が高くなくても（euglycemic DKA）起きることがあります。

シックデイルール：体調不良時は水分補給・測定の頻度アップ・一時中止の判断が鍵。

B. 体調不良時（発熱・嘔吐・下痢）の対応ステップ

水分：経口補水液や薄いスポーツ飲料を1日 1.5～2L目安に少量頻回で。嘔吐が強い時は医療機関へ。

測定：血糖（1日3～4回）、可能なら尿/血中ケトンチェック。体重・体温・脈も確認。

栄養：固形が難しい時はゼリー/スープ/ヨーグルトなど糖分と塩分を少量ずつ。

薬の見直し：SGLT2は一時中止を検討（下記C参照）。SU・グリニドは低血糖に注意。

相談：当院へ早めに連絡（電話 03-6281-9280 / LINE）。症状・摂取量・血糖・体温をお知らせください。

C. 一時中止の目安（SGLT2）

脱水が疑われる：口が渴く・尿が少ない・めまい・立ちくらみ。

持続する発熱・嘔吐・下痢（数回以上 / 半日～1日以上）。

食事・水分が十分にとれない、または絶食・造影検査前後。

手術・侵襲的処置の前後（医師の指示に従う）。

D. 再開の目安

発熱・胃腸症状が改善し、水分・食事が普段通りにとれる。

低血圧・めまいがない。尿量が戻っている。

ケトン陰性、血糖が安定（可能な範囲で）。

医師に相談して再開タイミングを確認。

E. 併用薬の注意

利尿薬・RA系（ACE/ARB）・NSAIDs：脱水時は腎機能悪化のリスク。血圧低下・乏尿に注意。

SU薬・グリニド・インスリン：食事量低下時は低血糖リスク。自己調整はせず医師へ相談。

造影検査：検査前後の取り扱いは必ず指示に従う。

F. 受診・連絡の目安（赤旗）

強い口渴・尿が極端に少ない・ふらつき/失神	持続する吐き気/嘔吐・腹痛・呼吸が速い（DKA疑い）
38 以上の発熱が持続・意識がもうろう	血糖が高い/または普段より低いのに体調が悪い

連絡先：03-6281-9280（代表） / LINE：公式アカウントからメッセージ。救急性が高い場合は119番または最寄りの医療機関へ。

改訂日：2025-11-02 | 提供：施設名称：医療法人社団悠鳳会 0th CLINIC（ゼロスクリニック） | 〒103-0027

所在地：東京都中央区日本橋二丁目16番9号 CAMCO日本橋ビル4階 | 電話：03-6281-9280